



広報 つるおかの 医療相談



庄内病院の医師が
疑問を解決！

○問合せ 庄内病院総務課 ☎26 - 5111

脳神経外科

慢性硬膜下血腫とは？

慢性硬膜下血腫は、40代〜60代の中高齢者に多い病気です。比較的軽微な外傷を負った後、3週間〜3か月後に脳の表面に血腫ができて徐々に拡大し、歩行障害やまひなどを発症します。割の方は外傷がはっきりりしませんが、けが直後のCT検査は正常でも、脳の萎縮が強い方、血液をサラサラにする薬やお酒を飲む方は危険性が高まります。普通は、体内に出血すると血液は固まりますが、慢性硬膜下血腫は液体のまま、ゆっくり拡大します。

治療では頭皮に局所麻酔をして頭蓋骨に直径1cmほどの穴を開けます。そして、血腫を洗浄し、柔らかい管を留め置いて1日〜2日間かけて血腫を排出します。全身麻酔が不要なため、100歳前後の方でも手術ができます。多くは回復しますが、来院が遅れた場合や症状が急激に悪化した場合などは回復具合が変わってきます。現在、年間

頭にけがをして救急外来を受診した際、1か月〜2か月間は慢性硬膜下血腫に注意するように言われました。どのような病気でしようか。

庄内病院の脳神経外科

脳卒中や頭部外傷など緊急疾患を的確に治療できるようにしています。特に頭部外傷では数分の違いが生死を分けるため、救急センターで手術しなければ手遅れになる場合もあり、近くの病院での迅速な治療が必須です。一方で、脳腫瘍などは状況に応じて大病院を紹介する場合もあります。



脳神経外科医師
佐藤和彦

内科 (腎臓内科)

尿検査で、異常が見つかりました

尿たんぱくや尿潜血が続くときは、具合が悪くなくても慢性糸球体腎炎などの腎臓病が始まっている可能性があるため、医療機関での再検査をお勧めします。早く診断することで、病気の進行を抑えられる場合があります。

庄内病院の内科(腎臓内科)

毎年受けることをお勧めします。CKDを早期に診断することの大切さ、腎臓を守る生活習慣などを市民に伝える取り組みを行っています。

その1つが、毎年秋に開催される「天腎祭」です。庄内病院、鶴岡地区医師会、鶴岡協立病院をはじめとする医療機関が協力し、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など様々な職種の方が登壇する、腎臓病に関連した市民公開セミナーです。管理栄養士から塩分制限のコツなど食事に関するアドバイスを聞くこともできます。開催が近くになりましたらお知らせしますので、ぜひご参加ください。



内科医師
安宅謙

尿たんぱくや尿潜血が続くときは、具合が悪くなくても慢性糸球体腎炎などの腎臓病が始まっている可能性があるため、医療機関での再検査をお勧めします。早く診断することで、病気の進行を抑えられる場合があります。

CKDは自覚症状がなく気付きにくいことが多いので、尿検査、血液検査による健康診断を

昨年の健康診断で尿たんぱく、尿潜血が陽性でしたが、今のところ具合は悪くありません。更に詳しい検査や治療を受ける必要はありますか。